

執筆要領

1. 原稿は、日本語・英語・フランス語のいずれかを使用すること。
2. 原稿は、「論文」または「資料」とする。「論文」は、執筆者自身による未発表の研究論文、「資料」は、研究・分析のための資料を研究者一般が利用できる形にして掲載するもので、言語テキスト、語彙資料、歴史資料など。原稿1枚目表紙には「論文」「資料」の別を明記する。
3. 原稿は、投稿段階でハードコピーおよびプリントアウトに用いた文書ファイルを提出することとし、前者を正本とする。特殊文字・記号を用いた原稿の場合には、その一覧表のプリントアウトを添える。
 - ・ハードコピー原稿はA4判とし、以下の形式で3部提出すること。
 - ・天地左右とも余白22ミリ、日本語の場合は文字サイズ10.5ポイントにて、43字×40行、英語・フランス語の場合は、文字サイズ12ポイントを使用し、ダブルスペースで入力すること。
 - ・脚注・図版・写真などを割付けた原稿のほか、それぞれ巻末にまとめて添え、挿入箇所を本文中に記してもよい。また、鮮明な図版・写真原稿は1部とし、他の2部はコピーでよい。
4. 英語およびフランス語の原稿の場合、タイプライターによる投稿も認める。その場合、行間はダブルスペースとし、イタリック体の箇所には下線を施すこと。また、この場合にも、5. 以下の規定に従うこと。
5. 原稿は、1枚目表紙に、「論文」「資料」の別のほか、表題、執筆者名、所属（日本語原稿の場合には、日本語・英語の両文）、掲載用メールアドレスを記す。その他の箇所には、執筆者名および所属など筆者を特定できる情報を記載しないこと。
6. 2枚目以降は、論文または資料の本文とし、「論文」「資料」の別を記し、表題に続いて要旨（英語300語～500語）、目次、本文と、ジャーナルの形式に従って執筆のこと。また、特に次の点に注意すること。
 - a. 要旨は、日本語・フランス語の論文および資料の場合には英語とすること。
 - b. 表題、要旨に続き、章、節などの大・中までの見出しを掲げ、目次として記すこと。
 - c. キーワードは日本語と英語それぞれ5語を附すこと。英語およびフランス語の場合には、英語5語のキーワードを附すこと。
 - d. 注は脚注とし、謝辞などはタイトル行に「*」として入れる。続けて1から始まる通し番号とすること。
 - e. 論文などに本文中で言及し、また引用する場合には次のような形で著者名、出版年、ページを記す。

Sapir 1925: 40-41.
今西1972b: 25.
7. 参考文献は稿末に一覧としてまとめる。その場合、著者の姓のアルファベット順とし、同著者による同年の文献が複数あるものについては、タイトルのアルファベット順に2004a, 2004b. として区別すること。なお、見やすくするために文献を言語別に分けてもよい。この場合には、日本語文献については五十音順とする。文献の記載方法は次の通りとする。
 - a. 単行本 [例]

Bloomfield, Leonard. 1933. *Language*. New York: Henry Holt & Co.
 - b. 雑誌 [例]

前嶋信次 1966 「テリアカ考—文化交流史上から見た一薬品の伝播について」 『史学』 38 (4): 1-39.
Sapir, Edward. 1925. "Sound Pattern in Language." *Language*, 1: 37-51.
 - c. 論文集掲載論文 [例]

Polanyi, Karl. 1957. "The Economy as Instituted Process." *Trade and Market in the Early Empires* (K. Polanyi, C. W. Arensberg and H. W. Pearson, eds.), 243-270, Chicago: The Free Press.
白鳥庫吉1944. 「拂菻問題の新解釈」 『白鳥博士記念論文集（東洋学報29（3・4））』, 407-500, 東洋協会学術調査部。
*同一論文集の論文を多数引用している場合、その論文集自体を単行本の扱いで見出しとして出し、各論文には次のような要領で論文集を示す方式を取ってもよい。

Polanyi, Karl. 1957. "The Economy as Instituted Process." *Trade and Market in the Early Empires* (K. Polanyi et al. eds.), 243-270.
8. 本文以外の言語の引用には、必ず本文で用いた言語で訳をつける。また、言語学における例文の引用などについては、以下のように、語または形態素ごとに訳「グロス」をつけること。
 - (1) nákorera ébaná
I.am.working.for children
'I am working for the children.'
 - (2) n-á-kor-er-a ébaná
1SG.SUB-PRES.PROG-WORK-BEN-FIN children
'I am working for the children.'
 - (3) n-á-kor-er-a ébaná
1単主語-現在進行-働く-受益-語尾 子供たち
「私は子供たちのために働いている。」
9. 校正は、初校を著者校正とし、資料などの性質上、必要と認められた場合には二校目以降も著者が行う。校正時の訂正は、誤植および字句の修正以外は認めない。